

12月3日～9日 障害者週間

共生社会を考えよう～学習支援から～

障がいや障がいのある人について関心と理解を深め、障がいのある人が社会、経済、文化のほかあらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として、毎年12月3日～9日を「障害者週間」としています。障がいのあるなしに関わらず、誰もが地域や職場、学校などで人格や個性を尊重し合い、支え合うことが大切です。

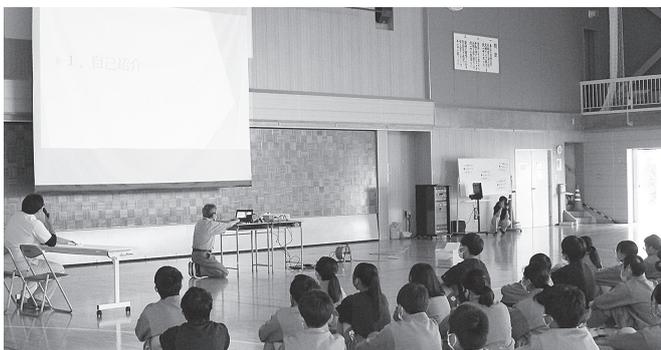
■相馬市地域自立支援協議会の学習支援

障がいのあるなしに関わらず、皆さんが地域で当たり前暮らし続けるための仕組みを考える場として、自立支援協議会が設置されています。

今回は、同協議会が福祉への関心や理解を深めることを目的に実施している学習支援事業を紹介します。今年度は中村第一中学校の2、3年生を対象に行いました。

講話で学ぶ

2年生を対象に、障がい、介護、保育の三分野の職業で活躍する方を講師に迎え、講話を行いました。



講話を聞く生徒ら

●生徒の感想

今回の講話から、障がい者や高齢者などを手助けする仕事にはやりがいがあることや、保育の仕事では子どもの成長を預かっているという大きな責任があることを知りました。今後、職業を選択する際、今回の講話を大いに参考にしていきたいと思います。

(2年生 中塚遵さん)

体験で学ぶ

3年生を対象に、視覚障がい者・高齢者の福祉体験を行いました。視覚障がい者の体験では、白杖を使い、目隠しをして階段の上り下りを体験したほか、高齢者の体験では車いす体験を行いました。

●生徒の感想

今回の学習で2つのことを学ぶことができました。1つ目は、高齢者への接し方です。相手への思いやりの気持ちを忘れずにコミュニケーションをとることは大事だと感じました。2つ目は目が不自由な人の大変さです。体験を通して目が不自由なことの怖さを実感しました。目が不自由な人が街中で困っていたら進んで声をかけようと思いました。この体験を生かして、将来に役立たせ、いろいろな人を笑顔にしていきたいです。

(3年生 佐藤夕輝さん)



車いす体験



白杖体験

学習支援を通して皆さんに伝えたいこと

●障害者支援施設ふきのとう苑 鈴木雅之さん

講話では、障がい福祉の仕事をテーマに、施設利用者の生活の様子や施設で働くために必要な資格のほか、看護師などのさまざまな専門職種の職員が協力して利用者の支援を行っている実態を話しました。

生徒の皆さんが、普段障がい福祉に関わる機会はありませんが、今回をきっかけに障がい者の方も同じ地域で一緒に生活していることに気付いてもらえたら嬉しいです。

また、障がい福祉の仕事に興味を持ってもらい、皆さんの将来の選択肢の一つになりましたら幸いです。

●相馬市地域自立支援協議会 荒瀬正さん

「福祉」とは、誰もが幸せに暮らすことができる社会を目指し、一人一人の幸せを実現するための営みで、私たちの普段の生活に深く関わる身近なものです。

今回の学習支援では、市内の福祉事業所の方から子どもたちに直接思いを伝えていただき、「福祉」が身近なものとして感じられる機会になったと思います。

私たちはこのような取り組みを重ね、子どもたちを含む誰もが社会の中で共に支え合い、「共に生きる力」を育むことができるよう支援していきたいです。

■福祉事業所合同販売会を実施します

障がいのある方の「働く」を支援する就労支援事業所の取り組みを広く知ってもらうことを目的に、福祉事業所合同販売会を開催します。

ぜひ参加ください。

●日時 ▽12月6日(火) 11時～13時

▽12月7日(水) 11時～13時

●場所 市役所1階御仕法通り

ホームページ
はこちらから

福祉事業所合同販売会



■図書館企画展示「障がいを理由とする差別解消」



12月1日～12月30日の間、図書館で「障がいを理由とする差別解消」をテーマとした図書を展示します。

ぜひこの機会に障がいや障がいのある人について学んでみませんか。

■「共生社会」の実現を目指して

今回の特集では、中学生を対象に障がい福祉をはじめとした福祉分野を紹介し、実際の活動や魅力などを伝える学習支援事業をお知らせしました。

障がいの種類や程度は一人一人異なります。また、障がいは目に見えるものだけでなく外見では分からないものなど、さまざまな種類があります。障がいのある方もない方も、互いに理解し、尊重し、支えあい、ともに暮らしやすい「共生社会」の実現を目指しましょう。

●問い合わせ先 健康福祉課 (☎ 37-2109)